



元号が令和へと変わり、変容する世界の流れに遅れまいと国際化が進む昨今。茨城県においても、海外との取引や外国人の往来が活発になる中で、新型コロナウイルス感染症の拡大や、世界情勢の変化に伴う物価の高騰など、私たちを取りまく環境は大きく様変わりした。このような世の中であって誰もが求める「幸せ」とは何だろうか。今、この世の中の潮流にあって、わが街・笠間を見つめると、この街を訪ねる多くの人びとの笑顔のゆえんがわかるような気がしてならない。



A Photo Report of Bike Riding in Kasama

わが街、探訪記

自転車回遊編

爽やかな青空が、笠間にはよく似合う。笠間市は「日本三大稲荷」の一つとして名高い笠間稲荷神社や、二五〇年の歩みを誇る笠間焼など、脈々と流れる歴史と伝統が受け継がれる街。四季の豊かさを感じさせる山々と森林に囲まれ、里山と田園の光景に人びとの営みが温かく映る街。交通網に恵まれ、「行き来する人びとを迎えてはもてなすこと」に長けた市民と賑わい「が人との交流を育む街」様々な顔を持つ街だ。そんな街をゆっくりと自転車で旅してみた。爽やかな青空のもと、気分は心地よい風とともになびく。

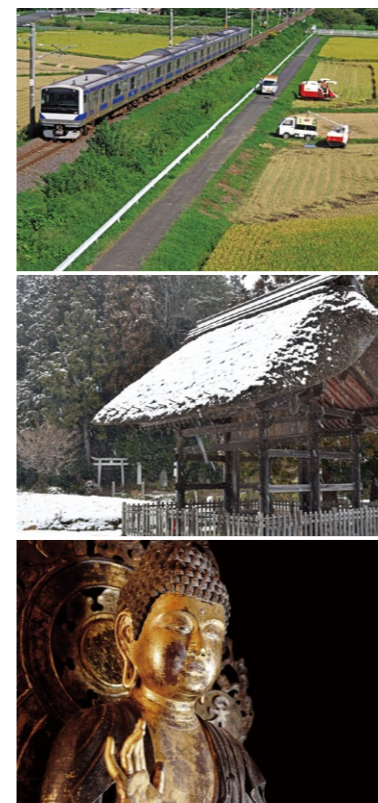
始点はJR常磐線とJR水戸線が合流する友部駅。この駅を含めて、笠間市にはJR常磐線の岩間駅、水戸線の穴戸駅、笠間駅、稲田駅、福原駅と六つの駅がある。今回は友部駅に設置されているシェアサイクルを利用してみよう。友部駅からは常磐線の特急(下り)のダイヤに合わせて「かさま観光周遊バス」も運行されている。友部駅の北口をスタートし、水戸線沿いに西へ二キロほど走ると、穴戸駅がある。NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』でも描かれた御家人の一人・八田知家(常陸守護職)の四男・家政が領地とし、その名を「穴戸氏」と称したことから「穴戸荘」と呼ばれたのが、この地である。江戸時代には、徳川家康の十一男で水戸徳川家の祖である徳川頼房の第七子・頼雄(水戸光圀の弟)がこの地を拝領し、この地を治め穴戸藩が成立した。中世の歴史は、穴戸城跡や陣屋跡など、今も地域の誇りとして敬われている。なお、



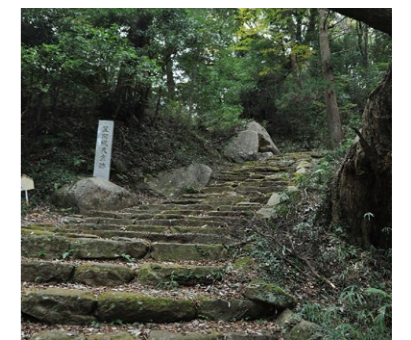
穴戸城跡は、土塁の一部だけ残っていて、その上に末廣稲荷神社がある。歴史民俗資料館(写真下)には穴戸城の絵図などが展示されている。



市内の観光拠点間を移動する交通手段として、笠間市で導入しているシェアサイクル(電動アシスト付自転車)は、友部駅北口、道の駅かさま、笠間駅、笠間芸術の森公園(笠間工芸の丘)、かさま歴史交流館井筒屋に設置されている。利用には、事前にアプリでの会員登録が必要。



明治四年七月の廃藩置県で、笠間藩は笠間県に、隣接する穴戸藩は穴戸県となり、同年十一月に両県は統合されて茨城県となる。旧笠間城下町は笠間町と改称され、明治二十二年、水戸鉄道(現・JR水戸線)が開通すると、笠間駅と大田町駅(開業後、穴戸駅と改称)が設置され、鉄道網が整備されていく。六年後に水戸鉄道は日本鉄道(現・JR常磐線)に譲渡され、「土浦線」が開通すると、「岩間駅」ならびに水戸線と接続する「友部駅」が設置された。大正



笠間の歴史(概要)

十二年には郡制が廃止され、岩間村は「岩間町」に。戦後、穴戸町の一部であった南友部は駅周辺の繁栄とともに発展し、昭和三十年に穴戸町などと合併して「友部町」が誕生。笠間町は、昭和三十年に大池田村などと合併、昭和三十三年には稲田町と合併し、同年市制施行となった。そして平成十八年三月十九日、昭和・平成と発展を遂げてきた旧笠間市・旧友部町・旧岩間町が合併し、新笠間市が誕生した。





東京五輪二〇二〇に合わせて、令和三年四月にはスケートボードの国際大会が開催できる国内最大規模のスケートパーク「ムラサキパークかさま」がオープン。新たな賑わいと楽しさを創造・発信しながら、街は進化し続ける。

その進化を遡るように、芸術と陶芸の丘から笠間藩の下屋敷跡のある「佐白山ろく公園」へ向かった。ここで少し笠間の地理について紹介したい。

茨城県のほぼ中央部に位置する笠間市は、北から西、南にかけて山に囲まれている。北部から西部にかけての栃木県との境には八溝山地の鶏足山塊が延び、国見山(三九一M)や仏頂山(四三〇M)が連なる。西部から南部にかけては筑波山塊があり、吾国山(五一八M)や難台山(五五二M)、火防信仰で知られる愛宕山(三〇六M)がある。この笠間盆地の中央に位置し、街を一望できる佐白山(八二M)の山頂に、承久元年(一一一九年)、笠間城が建てられた。築いたのは、藤原姓宇都宮氏の一族として常陸国笠間に入り、十八代に渡ってこの地を治めた笠間氏の祖・時朝である。

時朝は、恵まれた体格から武勇に優れていたが、歌人としても名高く、『前長門守時朝入京田舎打聞集』という私撰集を編さん、その写本は現在、宮内庁書陵部に所蔵されている。仏教においても、京都蓮華王院(三十三間堂)に千手観音像二体(一一〇号像・一六九号像)を寄進したのは有名である。市内には、石寺地内に弥勒仏立像、笠間氏の菩提寺として自らが中興した楞嚴寺に千手観音立像、岩谷寺に薬師如来立像を寄進。それぞれ国の重要文化財に指定されている。

陣屋の長屋門形式の表門は岩間地区に移築され、県の文化財に指定されている。

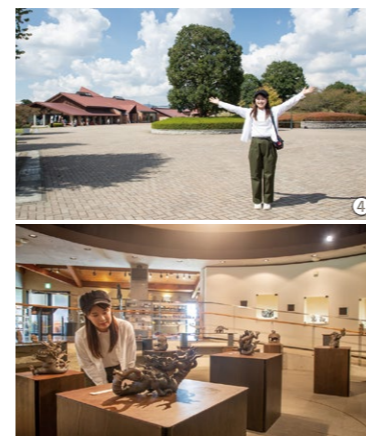
最初の目的地は、令和三年九月にオープンした「道の駅かさま(写真①)」。常磐自動車道「岩間IC」および北関東自動車道「友部IC」から笠間芸術の森公園や市街地へと続く国道三五号沿いに位置する当施設には、笠間の栗専門のカフェをはじめ、地元の食材が味わえるレストラン、新鮮な農産物・農産加工品のほか土産品などがずらりと並び直売所がある(詳しくは28頁参照)。また、道の駅の道路向かいにある「笠間栗ファクトリー(写真②)」では、風味豊かな笠間の栗のペーストを製造。笠間市内外のスイーツメーカー等へ出荷され、美味しい栗菓子に生まれ変わる。

笠間の「食」の魅力に後ろ髪を引かれながら自転車走らせると、ほどなく「笠間芸術の森公園」への右折の標識が見えてくる。「伝統工芸と新しい造形美術」をテーマとした「陶芸の街・笠間」の拠点がここにある。園内には「茨城県陶芸美術館(写真③)」があり、陶芸や工芸に関する作品を展示。全国でも数少ない陶芸に特化した当美術館ならではの企画展も好評だ。陶芸体験ができる「笠間工芸の丘・クラフトヒルズ(写真④)」や、全国屈指の陶芸教育施設「茨城県立笠間陶芸大学校」が隣接する(笠間焼関連施設の詳細は30頁参照)。

広大な公園は、イベント広場、野外コンサート広場、大型複合遊具などのある「あそびの杜」など、市民の憩いの場として親しまれている。県内最大規模のイベントの一つ「笠間の陶炎祭」もここで開催されている。「かさま新栗まつり」「笠間浪漫」など季節の恒例行事の多くもここで催され、訪れる多くの人びとを楽しませてくれる。



歴史の風情漂う佐白山ろく公園には、山頂に至る登山道がある。



笠間芸術の森公園には、Wi-Fi設備が完備。無線LAN機能を搭載したノートパソコンやスマートフォン等があれば、イベント広場、あそびの杜、ムラサキパークかさまでインターネットに接続できる。IDは「IBARAKI-FREE-WIFI」、パスワードは「ibarakiken」。





佐白山ろく公園に自転車を止め、銀杏など木々を眺め散策しながら、笠間城主下屋敷跡の碑や時鐘を通り抜けると、笠間城跡へ登る山道が見えてくる。登り口に隣接する「治功神社」の鳥居が立ち、その奥には社殿が静かに佇んでいる。

佐白山には堀の跡や石垣が残されていて、山頂の天守曲輪には佐志能神社がある。なお、笠間城の本丸八幡台上にあった「八幡台」は明治時代に真浄寺へ移設され、今も七面堂として使われている。

公園の坂道を下ると、モダンな建物が見えてくる。「笠間日動美術館(写真⑤)」だ。東京・銀座にある日動画廊の創業者、長谷川仁・林子夫妻が長谷川家ゆかりの地である笠間に創設した、日本を代表する画商の系列美術館である。モネ、ドガ、ルノワールなど印象派作品をはじめ、近代ヨーロッパ美術の巨匠が描いた作品が数多く展示されている。また、三四〇余点におよぶ国内外の著名画家が愛用したパレット画コレクションは、美術史的にも貴重な、世界に類を見ない所蔵・展示品となっている。

また、笠間日動美術館のすぐ隣には、大きな銅像が目に残る。「忠臣蔵」で知られる大石内蔵助の像(写真⑥)だ。大石家が仕えた浅野氏は元笠間藩主で、内蔵助の祖父・大石良欽は笠間藩家老だった。浅野氏はのちに赤穂へ転封。その半世紀後にあつた赤穂浪士の討ち入りが起こる。浪士たちとの絆は、今も姉妹都市として、赤穂市民との交流に受け継がれている。

そして、「笠間稲荷神社(写真⑦)」へ。笠間の歴史や観光情報の発信拠点となっている「かさま歴史交流館井筒屋(写真⑧)」の正面が笠間稲荷神社に通じる門前通り。その名の通り、古くから多くの参拝客で賑わう老舗や時世を先駆けるおしゃれな店舗が軒を連ね、甘い香りが漂ってくる。

社伝によれば、笠間稲荷神社は、孝徳天皇御代(白雉二年(六五一年))に創建された。当時、この地には胡桃の密林があり、そこに稲荷大神が祀られていたことから、「胡桃下稲荷」とも呼ばれる。御祭神は「宇迦之御魂神」で、殖産興業の守護神。菊まつりや初詣など、年間三五〇万人の参拝客で賑わう(笠間の菊まつり)の詳細は24頁を参照)。

周辺には市立の笠間公民館や市民体育館、笠間図書館などの公共施設があり、また、地元商業者を中心とする専門店とイオン笠間店、映画館などの複合施設「笠間ショッピングセンター ポレポリシティ」などの大型商業施設が国道五〇号沿いに並ぶ。

ここから走ること二〇分あまり。平安時代に編纂された『延喜式神名帳』に常陸国七社の宮に数えられた名神大社「稲田神社」の神域へ。そして昨今、SNSで話題の日本最大級の稲田御影石の採掘場「石切山脈」へと向かった。

水戸鉄道(現在の水戸線)の開通に向けて、その敷設工事にこの地の花崗石が大量に運び出されたのが稲田御影石の採掘の発端だ。明治二十二年(一八九九年)に同鉄道が開通すると、笠間の酒造業と笠間稲荷神社の出資により有限会社「花崗岩」が設立され、堅く美しい良質な稲田の花崗岩は「笠間石」の名称で採掘、販売が始まった。その後、県外から多くの企業も進出し、笠間の石は建築用



笠間稲荷門前通りには笠間名物いなり寿司、胡桃饅頭など、一口美味しい食べ歩きにぴったりなお店が並ぶ。詳細は門前通り専用サイト参照。
<http://kasapura.jp/monzen/>





である。その他、この地域では梨やいちごなど果樹の栽培も盛んだ。そして、お米も美味しい。

国道三五号西側にあたる岩間の上郷地区には田園地帯が広がり、穏やかな里山の原風景が残っている。北側にある館岸山(二五六メートル)には、南北朝時代の常陸における最後の戦いといわれる小田氏の乱で上杉方が陣を張ったと伝わる館岸城跡がある。据には、笠間市最古の円面硯(市指定文化財)や国分寺瓦など多数の遺跡が出土し、羽梨山神社や奈良時代の創建と伝わる普賢院の他、平安時代創建と伝わる安国寺など、この地域の長い歴史を物語る。

愛宕山頂には、大同元年(八〇六年)に創建されたと伝わる愛宕神社がある。ここには、天狗伝説があり、天狗にまつわる史跡が多い。神社の奥にある飯綱神社には、「十三天狗の祠」と呼ばれる石があり、年の暮れに愛宕神社の総代たちが天狗に扮し、供物をしながら祠を回る奇祭「悪態まつり」が開催されている。

令和二年、山頂にはグランピングテントなどを整備した、空に近い森のアウトドアリゾート「ETOWAKASAMA(エトワカサマ)」がオープンした。その眺望は格別で、夜景やご来光の美しさは市内随一だろう。

筑波山地域ジオパークの吾国山・愛宕山ジオサイトに指定されている愛宕山・難台山・吾国山のハイキングコースは、アツプダウンが多く、数ある市内のハイキングコースの中でも健脚者向き。そして春爛漫の五月上旬に花咲く自生のすずらん群生は一見の価値あり。

岩間地区でもう一つ訪ねたかったのが

材として、国会議事堂や最高裁判所、日本橋、東京駅など国内の多くの歴史的建造物に使われ、その気品と美しさの礎となっている。今日、この採石場跡の景観はあたかも古代遺跡のようで、訪れる人びとを驚かせてくれる。

壮大な景色を眺めながら敷地内のカフェでくつろいだ後、ここから一気に、愛宕山の麓へと向かおう。なお、稲田地区には他にも、浄土真宗の宗祖・親鸞が『教行信証』の草稿本を撰述したと伝えられる「西念寺」、福原地区には国内最大級の大しめ縄で知られる「常陸国出雲大社」がある。

途上、吾国山の麓、本戸地区へさしかかると、滞在型市民農園「笠間クラインガルテン」の三角屋根が目に残る。クラインガルテンとは、ドイツ語で「小さな庭」。都市生活では庭になかなか接する機会が無い生活を営む人びとのために、草花や野菜を栽培する、または器を作ることで土に親しんでもらおうというコンセプトで、笠間の歴史・園芸・芸術のライフスタイルを堪能できる施設となっている。

緩やかな上り下り、場所によっては結構気張る上り坂もあって、愛宕山麓のある岩間地区への自転車の旅は、少し汗ばむ。笠間は盆地だということを実感する。県内で最もゴルフ場の多い街の一つである所以かと思いつつ、国内男子ツアーのメジャートーナメント「日本ゴルフツアー選手権」が開催される穴戸ヒルズカントリークラブの前を通り過ぎた。坂道が下りに転じると、愛宕山の穏やかな頂が見えてくる。

笠間といえば、何と言っても「栗」。笠間市内には栗畑が広がっている。茨城県は全国第一位を誇る栗の生産地であり、その質と量を支えているのが、この笠間の栗

笠間市は、夏は気温・湿度が高く、冬は乾燥した晴天が多い太平洋型の気候。7月・8月の平均気温は24.4℃～25.6℃、1月・2月は2.4℃～3.3℃。風速は年間平均で1.1m/sと穏やかで、サイクリングなどは通年で楽しめる(気象庁・1991年～2020年のデータより)。



愛宕山の東側には「あたご天狗通り」や「すずらんロード」など古くからの商店街がある。岩間駅に隣接する地域交流センターいわま「あたご」には、愛宕山への観光拠点としてシャワールームなどが設置されている。



笠間市は、夏は気温・湿度が高く、冬は乾燥した晴天が多い太平洋型の気候。7月・8月の平均気温は24.4℃～25.6℃、1月・2月は2.4℃～3.3℃。風速は年間平均で1.1m/sと穏やかで、サイクリングなどは通年で楽しめる(気象庁・1991年～2020年のデータより)。



The refreshing blue sky fits the atmosphere of Kasama – a city of valuable heritage and the home to a vibrant local citizenry.

With each cycle of the calendar, the four seasons display a different view of the natural landscape. From a playground for sports, to a field ripe for harvest, one can see and experience the existing harmony between nature and the many generations of people who built, preserved, and continue to build the city of Kasama.

From its most notable shrine to its modern-day transportation system, visitors will find this city enchanting and exciting. It is home to Kasama Inari Shrine, which is one of Japan's major Inari shrines. Kasama also has 250 years history of pottery industry, called Kasama yaki in Japanese. Blessed with convenient means of transportation, the city provide easy access to a variety of traditional sites, as well as more modern entertainment venues,

Yet there is so much more to explore in this city of Kasama. As if feeling its heartbeat, I ventured a leisurely bicycle trip, seeking a network of other points of interest.

Starting at the north exit of Tomobe Station and running west along the JR Mito Line for about two kilometers, I stopped at Michi-no-Eki Kasama for my first visit of this bike ride. The facility of Michi-no-Eki Kasama is full of tasty original menus and foods, such as sweet, chestnuts, as well as fresh and processed agricultural products.

Going further along Route 355, I arrived in Kasama geijutsu-no-Mori Park. As the Kasama yaki bases, there are many facilities related with pottery arts, such as Ibaraki Ceramic Art Museum, Kasama Craffhills, and Ibaraki Prefectural Kasama College of ceramic Art. The park also has an event plaza, an outdoor concert stage, and a large complex playground (with equipment), making it a popular place for local citizens and visitors. One of the prefecture's largest events, Kasama Himatsuri Pottery Festival (from late April through early May), is also held here annually. One of Japan's largest skateparks, Murasaki Park Kasama, opened in 2021, and is visited by people of all ages.

After crossing the Craffhills Kasama I dropped at Sashiro Sanroku Park where the trailhead to Sashiro mountain is located. At the top of the mountain, Sashino Shrine is built on the site where Kasama Castle's tower once stood. Kasama Nichido Museum of Art is located down the hill of Sashiro Sanroku Park. On display are Impressionist works such as Monet, Degas, and Renoir, as well as many works by modern European masters.

The street in front of Kasama History Exchange Center Izutsuya is the main avenue leading to Kasama Inari Shrine. The long-established stores give many visitors enjoyable time within a historical atmosphere. According to the Shrine's record, Kasama Inari Shrine

was founded in 651, and the enshrined deity is "Ukanomitama no Kami," the guardian deity of the industry. Every autumn, the chrysanthemum festival is held here, drawing around 3.5 million visitors each year, including New Year's visitors.

Next, I headed to the Ishikiri granite Quarry, a popular spot on social media these days. It is one of the largest quarries in Japan and the hard, beautiful, high-quality Inada granite is mined in this area. The Kasama stones are used as a building material for many historical buildings in Japan, such as the National Diet Building, the Supreme Court, Nihonbashi, and JR Tokyo Station.

I cycled through Kasama Kleingarten, a residential community garden, to the foot of Mt. Atago, which is filled with the blessings of nature in Kasama. Having encountered mild ascents and descents during most of my trip, cycling to the Iwama area caused a bit of hard breathing and some heart thumping—it reminded me that Kasama is a basin and one of the towns with the most golf courses in the prefecture.

Yet there is the beauty of the agricultural fields in the basin. Chestnut fields are scattered here and there in Iwama, producing the raw materials for the famous Kasama chestnut cakes that can be tasted all over the city. The rice in Kasama is also delicious because of the region's abundant water and ideal soil. The countryside that spreads out at the foot of Mt. Atago is beautiful, as if it symbolizes the rich nature in this city.

Atago Shrine, which is said to have been built in 806, is located on the top of Atago. There is a legend that Tengu, a long-nosed goblin-like creature, lived here, and many historical sites relate to this legend. The view from the top of the mountain is exceptional. The sparkling night view and the beauty of the sunrise are probably the best in the city. In 2020, an outdoor glamping resort, ETOWA KASAMA, opened here, adding a touch of modernity to contrast with the historical legend of Teagu.

The hiking course from Mt. Atago to Mt. Wagakuni via Mt. Nandai has been designated as the Mt. Wagakuni-Mt. Atago Geosite. In the Iwama area, one can visit Aiki Shrine, the only shrine in the world dedicated to Aikido, created by Morihei Ueshiba.

The last stop on my trip was Tsukuba Navy Air Corps Memorial Hall, known as one of the largest scales of war heritages in Japan. It is an especially important legacy that should be inherited to future generations to never forget the tragedy of the Kamikaze suicide attack during the World War II.

The scenery of Kasama changes with the times and seasons, but its flavor is unchanging and unique. To all, I wish to send the passion and vitality of the powerful heartbeat echoing in this city.



「合気神社」。合気道の開祖・植芝盛平翁が創建した世界唯一の合気道の神社である。約一四〇の国と地域で鍛錬に励む合気道家たちから「合気道の聖地」と呼ばれ、毎年春に行われる例大祭には、奉納演武が披露される。

旅の最後に、「筑波海軍航空隊記念館」へ向かった。北関東自動車道の友部ICを出て正面、まっすぐ走る通りがこの記念館へと続く。

筑波海軍航空隊記念館は、国内最大規模で現存する戦争の遺構として知られ、特に特攻という悲劇を後世に伝える重要な遺産である。旧筑波海軍特攻隊史跡を一般公開しながら、若い世代へ戦争の記憶を継承する役割を果たしている。

夕刻、笠間市役所本庁舎などがある友部地区へ戻り、友部駅南口へ。最後に地域交流センターとも「Tomoa」へ到着した。マルチホールの他、会議室、市民活動サロン・カフェなどを兼ね備え、駅を利用する高校生たちにも人気の交流拠点だ。岩間駅西口には地域交流センターいわま「あたご」が隣接し、それぞれ、地域の活性化に生かされている。

ありのままの笠間を深呼吸しながら辿った一日。折々の賑わいと景色は、時代によって、季節によって異なるものの、その味わいは不変で唯一無双。訪れる人びとも、住んでいる人にも、いつもと違う視点から、改めてこの街の良さを感じてもらい、この街に響く、力強い鼓動から元気と活力を感じてほしい。(了)

モデル・水越恭子・笠間サイクルガイド
*当紀行でのルートは、実際に自転車で行けるものですが、モデルコースではありません。笠間での自転車モデルコースはご自身の参考ください。
<http://kasapur.jp/cycle/>



筑波海軍航空隊記念館は、平成25年(2013年)に公開された映画『永遠の0』の物語上の舞台、撮影地として注目を集め、現存する海軍航空隊司令部庁舎や関連資料を展示している。

